4　研究のまとめ

(2)　成果と課題

ア　成果

◯道徳の授業における「問題解決的な学習」の一形式を示し、授業実践を通してその有効性を明らかにしました。

本研究では、１時間の授業の中に「自己を見つめる」「自己の考えを広げ、深める」「これからの自己を考える」の３つの段階を位置付けました。児童生徒は、道徳上の問題について根拠に基づいた自己の考えを明確にした上で話合いをしたことで、自己の考えに自信をもったり変容を感じたりすることができ、自己(人間として)の生き方について考えることができました。また、学習のめあてを設定することで、教師も児童生徒も常にめあてを意識しながら学習活動を進めることができ、主題に沿った学習展開につながりました。

◯道徳の授業の評価の進め方について提案することができました。

道徳の内容項目に対する児童生徒の意識についての道徳アンケートを行うとともに、授業のワークシートを作成して、授業の実践に取り組みました。これらを基に、１単位時間の評価や学期、年間といったスパンでの道徳科の評価について考えることができました。また、道徳アンケートやワークシート、授業記録等を蓄積していくことが今後の道徳科の評価につながっていくことを示すことができました。

イ　課題

◯「問題解決的な学習」において、多面的・多角的に考え主体的に判断する児童生徒を育成する授業実践のためには、どこでどのような発問を設定するかが大切であると考えます。特に、全体での話合いにおいて、合意を形成するための手立ての工夫がより重要であると考えます。

◯評価の観点については、本研究の観点以外にも以下のようなものが考えられます。

- 教育課程部会で示された「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」
- 道徳科の目標に示された「道徳的判断力」「道徳的心情」「道徳的実践意欲・態度」
- 道徳的自覚の深まりに関わる「道徳的価値理解(価値理解・人間理解・他者理解)」「道徳的価値の主体的把握(自己理解を含む)」「道徳的価値実現への意欲の喚起」

いずれにしても、児童生徒の自己評価や授業記録、行動記録等を蓄積していくことが重要になってくると考えます。今後も評価の意義を踏まえつつ、児童生徒のよりよい成長や教師の授業改善のために生きて働く評価になるように実践を重ねていくことが必要であると考えます。

終わりに

平成27年度は、伊万里市立東山代小学校、唐津市立第一中学校において、平成28年度は、神埼市立千代田東部小学校、伊万里市立東山代小学校、唐津市立第一中学校、佐賀市立諸富中学校において、道徳科を見据えた問題解決的な学習を提案する公開授業研究会を開催し、多くの先生方に参会していただきました。

貴重なご意見、ご感想を頂いたことで、本研究の成果と課題を明らかにすることができました。本研究の成果を、道徳科の全面実施に向けた授業実践や評価に還元していただければ幸いです。多くの先生方の参会に感謝申し上げます。

最後に、本研究に御協力いただきました公開授業研究会場校の皆様へ深く感謝、御礼申し上げます。